

【宮崎県】 延岡市立北方学園

延岡市立北方学園小学校
延岡市立北方学園中学校

1. 学校・市町村概要

- 教育目標：北方の伝統を継承しつつ 北方の発展に積極的に参画し「ふるさと北方」を創造する 児童生徒の育成
- 所在地：宮崎県延岡市北方町川水流卯972
- 児童生徒数（H29.5.1時点）



学年	小学校								中学校					小・中計
	1	2	3	4	5	6	特別支援学級	計	1	2	3	特別支援学級	計	
児童生徒数	24	25	31	24	18	26	4	152	26	33	30	5	94	246
学級数	1	1	1	1	1	1	2	8	1	1	1	2	5	13

● 延岡市概要：〔人口〕122,669人 〔学校数〕小学校27校、中学校16校

2. 導入経緯

- ・平成22年度 少子化等を踏まえ、よりよい教育環境を実現するため「延岡市立小中学校適正配置検討会議規則」を制定
- ・平成23年度 北方地区において「学校再編に係る説明会」を実施
- ・平成25年度 「延岡市立小中学校設置条例の一部を改正する条例」を公布
- ・平成26年度 4月北方学園小中学校開校（小学校4校、中学校1校を統合）

3. 小中一貫教育の取組概要

ねらい

- 教育方針の一本化によって、無駄のない効果的な教育課程の編成を可能にする。
- 小学校と中学校の教員の相互乗り入れの授業を可能にする。
- 小中一貫校を核とした新たな教育コミュニティを形成する。

形態・施設 ● 施設一体型

- 小学校と中学校の棟を1・2階の渡り廊下で連結
- 小学校・中学校同一の職員室
- 小学校・中学校同一の保健室（養護教諭は2名配置）

教職員体制

- 校長：1名配置 ● 教職員：一部教職員に兼務発令 ● 小中一貫教育コーディネーター：指名なし

教育課程特例・区切り・区切りを意識させる行事

- 教育課程の特例：実施なし
- 区切り：6-3
- 行事：小学校と中学校の合同入学式（卒業式は小中別に実施）

教科担任制・教員の相互乗り入れ

- 教科担任制：第3学年から音楽科、第5・6学年から外国語活動、第6学年から算数科、体育科に導入
- 乗り入れ：中学校教員が小学校の算数科、音楽科、体育科、外国語活動に乗り入れ

児童生徒の異学年交流

- 縦割りの清掃活動 ● 全校集会 ● 体育祭、文化祭、入学式

市町村教育委員会等による支援

- 「延岡市わかあゆ教育プラン」に基づき、市内全ての中学校区で小中一貫教育を実施。
- 施設一体型小中一貫校を4校設置し、そのうちの2校は特認校制度を取り入れ、市内全域から児童生徒を受け入れたりと、外国語教育の充実のためALTの派遣回数を多くしたりしている。（※本校は該当しない）

4. 取組の工夫：人間関係や相互の評価を固定化させない工夫
【固定化を回避する工夫】

□ 手引 第9章 P96~P97

小中一貫教育の導入に関して典型的に指摘される課題の一つとして、子供たちの人間関係や相互の評価が固定化されるのではないかと懸念があります。これを解消する工夫として、地域との連携により学校外の集団への所属を促すことなどが考えられ、この点で延岡市立北方学園における取組が参考になります。

本校では、教科指導において中学校の教員が小学校の教科指導に乗り入れ指導を行い、多様な教員と関わらせたり、特別活動において小中合同行事を計画し、異学年交流を充実させたりしています。また、開校当初から「学校を核としたまちづくり」「地域とともにある学校づくり」を目標に、地域人材・地域素材や関係機関と連携した取組を行っています。児童生徒が地域や関係機関等の様々な人と関わることで、学校外の集団への所属が促されています。

● 学習場面における工夫

乗り入れ指導により小学校での発展的な指導や習熟度別指導の中で、個に応じた指導を行っています。本年度は、中学校の数学科、英語科、音楽科、保健体育科の教員が乗り入れ指導を行っており、児童生徒の多面的な評価につなげています。

● 学校行事や生活場面における工夫

施設一体型の利点を生かし、小中合同での児童会・生徒会活動や入学式、体育祭、文化祭（清流祭）などの学校行事を実施しています。また、異学年での交流給食なども行っており、日常的にも異学年で交流する機会を設けています。

● 地域人材・地域素材（ひと・もの・空間）や関係機関と連携した取組の工夫

地域の「ひと・もの・空間」に触れ、地域のよさを知る活動（小学校）

小学校では、「北方PR大作戦」を大テーマに、発達段階に応じて学年ごとのテーマを設定しています。地域住民、保護者、NPO法人、行政機関といった様々な立場の大人と体験学習や出前授業を通して関わりながら、北方町のよさを知り、発信する学習を行っています。

第1・2学年	北方の「ひと・もの・空間」に触れる学習
第3・4学年	「北方探検隊」（体験・生産・交流） 休耕田の活用、特産物の生産・販売
第5・6学年	「北方PR隊」（探求、比較、創造） 名所訪問、新名所の開発とイベントの企画

※統合により学校がなくなった地域でも活動しています



小学校で身に付けたことを、中学校で発展的に生かす
（9年間の系統性と連続性を意識した学習内容）

地域に参画し、より広い視野から地域を考える活動（中学校）

【干支のまちフェスティバル】

学校とPTA、高齢者クラブ、行政、商工会が協働して行う地域最大のイベントに、中学生が企画の段階から参加しています。当日は、小学生はステージ発表、中学生はステージの進行や出店店舗の販売補助、広報活動等を行います。

【北方サミット】

保護者、行政、地域住民とともに、北方町の現在と未来について意見交換をします。これまでの体験や得た知識をもとに、地域への思いを伝えます。

【その他の活動】

地場産業体験学習	小学校での体験をもとに、地域の果樹園や茶園などを訪問する（中学校第1学年）
職場体験学習	人との関わり方や思いの伝え方も学び、修学旅行先での北方町PR活動につなげる（中学校第2学年）



5. これまでの成果と課題、今後の取組

地域や関係機関と一体となった活動の機会を豊富に設定することにより、次のような成果が表れています。

- ・児童生徒が地域への関心を高め、地域の行事やボランティア活動に積極的に参加するようになっています。
- ・様々な立場の大人と関わる経験を重ねることにより、児童生徒が生き方を学び、将来の夢や目標をもつ機会になっています。
- ・児童生徒のコミュニケーション能力の向上にもつながっています。

今後は、開校当時の思いを継承しながらより効果的な活動内容となるよう工夫し、「学校を核としたまちづくり」「地域とともにある学校づくり」を一層進めていきたいと考えています。

地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか

※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計
（平成29年度全国学力・学習状況調査より）

	小学6年	中学3年
本校	75.0%	76.6%
全国	63.9%	59.2%

1. 学校・市町村概要

- 教育目標：「自分」を育てる
- 所在地：広島県呉市西中央4丁目10-52
- 児童生徒数（H29.5.1時点）



学年	小学校								中学校				小・中計	
	1	2	3	4	5	6	特別支援学級	計	7	8	9	特別支援学級		計
児童生徒数	89	109	115	106	94	89	18	620	79	93	87	10	269	889
学級数	3	4	3	3	3	3	4	23	2	3	3	2	10	33

● 呉市概要：〔人口〕229,868人 〔学校数〕小学校36校, 中学校26校

2. 導入経緯

- 平成12年度 現在の呉中央学園(呉中央中学校区)が小中連携の研究開発学校に指定(文部省)
- 平成16年度 小中連携の研究成果を文部科学省に報告
- 平成19年度 呉市内の全中学校区において小中一貫教育を導入・実施

3. 小中一貫教育の取組概要

ねらい ● 「資質・能力」の育成を目指す小中一貫教育

形態・施設 ● 施設一体型

- 前期棟(小1~小4), 中期棟(小5~中1), 後期棟(中2~中3)
- 小学校・中学校同一の職員室
- 特別教室(図書室, 調理室等)は小・中学校共通のものを設置



教職員体制

- 校長:各校に配置
- 教職員:一部教職員に業務発令
- 小中一貫教育推進コーディネーター:指名あり

教育課程特例・区切り・区切りを意識させる行事

- 教育課程の特例:実施なし
- 区切り:4-3-2
- 行事:「二分の一成入式」(第4学年), 「立志式」(第7学年), 第1学年の世話(前期リーダーとして第4学年が実施), 期末試験の実施(第5学年・第6学年)

教科担任制・教員の相互乗り入れ

- 教科担任制:一部教科担任制(第5学年から理科, 音楽科, 体育科, 家庭科)
- 相互乗り入れ:小学校教員が中学校の特別活動に乗り入れ
中学校教員が小学校の国語科, 算数科, 音楽科, 体育科, 外国語活動に乗り入れ

児童生徒の異学年交流

▶ 次頁へ

- 「3・8交流」:第8学年が第3学年に自分たちの地域を案内(総合的な学習の時間)
- 「4・9交流」:第9学年が第4学年を対象とした講座を開催(総合的な学習の時間)
- 「5・7交流」:第7学年が第5学年に新聞作りや発表方法の手本を見せる。(総合的な学習の時間)
- 「校内探検」:第2学年が第1学年を案内(生活科)
- 縦割り掃除:第5学年・第6学年・第7学年

市町村教育委員会等による支援

- 小中一貫教育推進コーディネーター研修の実施(小中一貫教育推進コーディネーター対象)
- 「学びの変革」推進研修会の実施(教務主任・研究主任対象)
- ブロック別学校経営研修会の実施(管理職対象)
- 小中一貫教育実践事例集の作成
- 小中一貫教育研究指定校事業の実施(補助金交付)

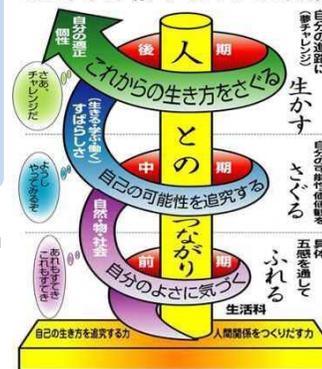
4. 取組の工夫:多様な異学年交流の設定
【教科等における共同学習】

異学年交流により社会性やリーダーシップを育成することができる。十分な集団規模を確保して教育活動を行うことができるなどの効果が期待されます。しかし、教育的意義のある活動となるよう、ねらいを明確に意識して取り組む必要があります。また、目指すねらいの達成に向けて、どのような活動をどの学年や集団において行うことが効果的かを検討し、交流活動の内容や交流範囲を決める必要があります。

● 総合的な学習の時間の取組

総合的な学習の時間では、「夢チャレンジの時間」として、9年間を通して系統化された学習内容にしています。学びたいことを異学年集団で教わったり教えたりする活動を通して、自分のよさを見つけ、夢や目標を持って生きようとする態度など自己の生き方を追究する力や望ましい人間関係をつくりだす力を育成することをねらっています。

生き方学習(夢チャレンジの時間)



● 3・8交流「校区ふしぎ発見」



校区内をフィールドワークする活動を異学年で行っています。8年生は、3年生のために働くこととする気持ちを持ち、グループリーダーとして手本・見本となることを目指し、3年生は、自分の思いを8年生にはっきり伝えることを目指しています。

● 4・9交流「よろ4・9先輩の会」



9年生は、4年生の目標達成に向けて自ら貢献することを通して、自己存在感を実感することを、4年生は、自らの目標に向かって努力することによって自己の成長に気付くことを目指しています。

● 5・7交流「職場体験発表会」



7年生は5年生に分かりやすく説明することで、先輩としての自覚を持ち、職場体験における学習を深めることを、5年生は自身の職場訪問に7年生からの学びを生かすことをねらっています。

例えば、「4・9交流」の最後の感想(抜粋)には、異学年での関わりから自分を深く見つめた表れが見られています。

「私たちが4年生のとき9年生の人たちに、お世話になったことを思い出しました。少し恩返しできた気持ちになりました。」
9年 4年
9年生になるとき、同じやさしい9年生になりたい。

5. これまでの成果と課題、今後の取組

「自分が、周りの人から認められていると思いますか」のアンケートでは、異学年交流の事前と事後を比較すると、「思わない」と回答した割合が減少していることが分かります。異学年交流は、特に中期・後期の落ち込んだ自尊感情の回復に効果があることが、本校の研究の中で確認できています。

【参考】自分が周りの人(家族や友達)から認められていると思いますか

